

森林破壊ゼロに向けた取り組み

森林破壊は、生態系の破壊や生物多様性の喪失に直接つながるとともに、温室効果ガス排出の20%を占めるとわれています。森林破壊を止めることは、地球環境社会の持続性にとって極めて重要です。森林破壊が引き起こされる原因は複雑ですが、紙・木材、アブラヤシや大豆の栽培、牛飼育によることが特に大きな影響を与えていると考えられています。

味の素グループは、事業活動で使用している紙、パーム油について、その調達と利用が森林破壊に加担することがないようにするため、グループを挙げて取り組みを進めています。

森林破壊の問題はパルプ生産のためのプランテーションやアブラヤシ農園で起きています。一方、味の素グループは、紙やパーム油関連原材料を調達使用する消費財製造事業者であり、これらの原材料にかかわるサプライチェーンにおいて下流に位置している存在です。紙やパーム油はグループの事業活動にとって必要な原材料で、今後も事業発展にとって重要であり続けます。そこで、味の素グループにとってこれら重要原料に関して責任ある調達を達成し、事業活動の健全な成長を確保するために、次の二つの取り組みを進めています。

まず、現在調達使用している原材料が森林破壊などの環境面や人権問題などの社会面で問題がないことを確認し、担保することが必要です。特に近年では、原材料の生産・加工段階で従事する労働者の人権侵害の有無につき、社会の関心が高まっています。そのためには、調達使用している原材料についてサプライチェーンの最上流まで遡ってトレーサビリティを確立することが重要となります。問題がある場合には、サプライチェーン関係者との協働により、即時、適切な対応をとらなければなりません。

さらに、今後の事業成長に伴い紙やパーム油の調達量が増える場合でも、環境・社会問題がない原材料を安定的に調達使用できることが必要です。それには、これら持続可能な原材料の調達使用が、社会全体で当たり前のもになることが重要です。それが味の素グループの持続可能な調達をも確実にするからです。そのためには、持続可能な生産、サプライチェーンの社会システム創りに自ら積極的にかわり、SDGsの目標12にも掲げられた持続可能な消費と生産に向けた多様な関係者との連携・協働の取り組みをリードしていく決意です。

森林破壊ゼロに加えて、グローバルでの人権課題への対応の重要性が増しており、その双方を満たすためにRSPOのような仕組みを活用することが効果的、効率的、客観的納得性のある手段の一つと考えています。従って、そのような信頼に足る基準や仕組みがある場合には、それらの積極的な活用に優先して取り組みます。また、それらの社会への浸透を後押しします。

ただし、これは、必ずしも認証品を購入するということのみを意味するものではありません。認証品の購入が実際に可能で合理的である場合はそれを追求します。しかし、コーヒークリーマーの原料として使われるパーム核油のように、現実に認証品の供給が限定されていて合理的な調達が困難な場合が多いことがあります。このような場合は、持続可能な消費と生産に資する基準や仕組みを活用して、実質的に環境・社会課題がないことを担保する取り組みを着実に展開することも重要と考えます。

紙・パーム油の持続可能な調達への取り組み方針

認識

グローバルレベルでの責任を目指す企業として、原産地の森林破壊ゼロを支持し、グローバルグループ範囲で、持続可能な紙・パーム油の調達利用に取り組む。

方針

- 自社の使用において持続可能な紙・パーム油調達利用を追求
- 目標:2020年までに持続可能な調達を実現する。
- 持続可能な紙・パーム油の調達に向けた社会の仕組みの健全な発展に貢献

参照 → 特集2 P37-38

“森林破壊ゼロ”に向けた取り組み